

# JAERA

# NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言… P1 □「自動車リサイクル法 15 年目の見直し議論への機構の提案について」…P1・P2・P3
- 共同出荷事業の結果報告… P3 □自動車リサイクル業界のBCP実態調査について… P4
- 2020 年度自動車リサイクル促進センターの理解活動について / 番組収録時のエアバッグによる事故について… P5
- 九州ブロック会議 / 9 月新車販売・使用済自動車発生台数… P6
- 鉄スクラップ最新情報… P7 □行事予定・お知らせ / 編集後記… P8

vol. **140**

## 自動車リサイクル法 15 年目の見直し議論への機構の提案について

# 01

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
代表理事 酒井 康雄

新型コロナウイルスの影響で開催が延期されていた産構審、中環審合同会議がリモートで 8 月 19 日に開催され、それに続き 9 月 25 日、30 日には関係各団体から取り組みや課題などについての報告がされました。当機構は 30 日に活動の報告と業界としての問題提起をしましたので、その内容について報告をさせていただきます。

まず機構の活動としまして、自動車リサイクル士認定制度の運用、コンピューター基板などの貴金属とリビルド向けHVバッテリーの共同出荷事業、高度化財団からの受託事業、ネットオークション運営会社とのエアバッグ出品禁止の合意、いくつかの支部で実施した車内へのゴミ混入防止啓発活動、リ協、JTPの団体会員としての加入とリサイクル推進会議の設置などを報告しました。

次に自動車リサイクル法 15 年目の見直しにあたり、業界として解決すべきと考えている問題について発表、以下の内容を提案しました。

### 1. 廃車ガラの流通が滞らない仕組みづくり

中国の雑品スクラップ輸入禁止により、国内でのダスト発生が急激に増え、廃車ガラの受け入れ制限や、取引条件の悪化を会員の皆さんに協力いただいたアンケートを示し説明。問題解決のためには、状況に応じてASR処理料金を柔軟にすばやく変更できる仕組みが必要であり、新車時のリサイクル料金を車台番号に紐付けして廃車時に使用する現在の制度を見直し、リサイクル料金をプールして処理費用に充当する、いわゆる年金方式を検討すべきと考える。

## 巻頭言

芸能人のマツコデラックスさんがある雑誌インタビューで「私は達観した」と話していた。

この「達観」という言葉、恥ずかしながら私はほとんど使ったことはないし、聞きなれてもない。

先日、ある同業者とこの先 20 年 30 年後の我々業界はどうなっているのだろうと雑談をしていたら、先輩曰く「そんな先まで仕事やってないよ」で終わった。まさしく同感ではあるが、自分が仕事をできなくなってもこの業界は残っていく訳で、「達観」へ到達できなくても遠い将来の私たちの業界の行先を最後まで考えていきたいものだ。

〈広報部会 田村 幸男〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
〒105-0004

東京都港区新橋3丁目2番2号

TEL: 03-3519-5181

FAX: 03-3597-5171

MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp

H P: http://www.elv.or.jp/

# 自動車リサイクル法 15年目の見直し議論への機構の提案について

01

## 2. A S R削減のためのリサイクル推進について

A S R削減のために樹脂とガラスのリサイクルのスキームづくりにあたり、我々が事業として採算性を確保できるようなインセンティブ制度や、小型破碎機などの設備への補助を要望。

## 3. リサイクル料金の輸出返還制度の見直し

現制度では輸出された車のリサイクル料金は、最終所有者に返還される制度となっているがその見直しを要望。理由は市場での公平な競争が阻害されていると考えること。

我々解体業者は車の確保のため、リサイクル料金を負担して仕入れをせざるを得ない現状がある。他方輸出実績では、過去10年間に車齢14年以上の低年式車の輸出が大幅に増えている。このような車両は一般的に低価格帯であることから、リサイクル料金が仕入れ金額に占める割合は高く、輸出還付制度は輸出インセンティブになっており、市場での公平な競争を阻害する制度になっていると考える。

## 4. エアバッグ、フロン回収料金の見直し

エアバッグ、フロンの回収については解体業者として重要な作業として認識しており、自動車リサイクル士制度のなかでも重点項目として捉えている。また自再協との協力で、各地域の講習会を通じ現場への指導も努力しているが、作業料金については法施行時に決められたまま15年以上見直しがされていない。この間デフレ経済下とは言うものの、最低賃金や初任給は上がり労働力の確保や働き方改革、専門性のある新技術や知識の習得、労働環境の整備などコストアップしている。エアバッグの処理については、一括作動であれば手間は同じという理由で一律料金となっているが、装備個数の大幅な増加で作動後の確認作業など、手間は増えている現状もあり増額を要望する。

## 5. 自動車リサイクル士制度の活用

社会が大きく変革する時代に、適正な処理と高度なリサイクルを目指す優良事業者を増やすことが、社会的にも求められる。その実現の方策として業許可に際し、設備や標準作業書だけでなく法の理解やリサイクル技術の知識などを確認することが必要と考える。能力の確認方法として自動車リサイクル士制度を活用してもらいたい。

## 6. ヤード問題への取り組み

全国に3,000以上のヤードがあると言われ、盗難車などの犯罪、環境汚染、違法処理など社会問題化している。一部の自治体で条例化もされているが、全国での取り組みとし自治体による指導を強化してもらいたい。

## 7. エアバッグ回収業者への指導について

エアバッグ処理については、作動処理の方が処理コストも大幅に安く処理漏れも少ないことから作動処理を更にすすめるべきと考えるが、種々の理由により回収作業を選択する事業者はある。回収業者に対する指導は行政の責任であるが、不適切な処理や違法な流通が無いように指導をしてもらいたい。

## 8. リサイクルシステムの大改造にあたっての要望

国交省の自動車登録システムと連動をして、永久抹消手続きや重量税還付など、一気に通貫でできるシステムにしてほしい。また、解体業者が引き取り、フロン工程も中心的に担っていることから、工程間の移動処理も見直せるのではと考える。

新システムではリユースやリサイクルを促進し、より高度なものにすることを念頭にして拡張性のあるシステムとしてもらいたい。具体的にはマテリアルリサイクルのために必要な対象部品情報、回収された素材の流通の情報の一元化、またリユースの促進のためには安心を担保するためのリコール情報の表示、複雑化する部品の確実な適合を確保するためのメーカーの部品電子カタログ情報との連携を要望。

## 共同出荷事業の結果報告

# 02

### HV バッテリー共同出荷事業 2020 年度（上期）集荷分データ報告

2020 年度（上期）集荷分データを以下のとおり報告させていただきます。ご参加くださった会員の皆様、誠にありがとうございました。

- <参加者数>JAERA 会員事業所 73 社
- <集荷期間>2020 年 4 月～2020 年 9 月
- <集荷量>

プリウス 20	プリウス 30	プリウス α	アクア	カラーアクション ／フィルター	レクサス GS450H	クラウン GWS204		
231 個	205 個	10 個	128 個	0 個	2 個	9 個		
クラウン ASW210	SAI／レクサス HS250H	カムリ ハイブリッド	デュトロ	不良品A	不良品B	不良品C	合 計	
3 個	6 個	1 個	2 個	0 個	0 個	5 個	602 個	

### 「貴金属類の共同出荷事業」第 1 回目（7 月）集荷報告

今年度第 1 回目集荷分の重量データを以下のとおり報告させていただきます。ご参加いただいた会員の皆様、誠にありがとうございました。

- <参加者数>JAERA 会員事業所 106 社
- <集荷重量>

基板（アルミ無）	基板（アルミ有）	AB カプラー	センサー類	合 計
5,222.5 kg	175.5 kg	1,272.0 kg	6,388.0 kg	13,058.0 kg

※今回集荷されたコンピュータ基板の中に電池が付着したままのパソコン基板が混入していた模様です。電池が付着したまま破碎工程に投入してしまうと火災等の原因になり、全体の品位低下にもつながりますので、次回出荷の際には、安全性の観点から指定品目以外が混入しないよう十分なお確認をお願いいたします。

本調査は、日頃より機構活動や未来部会での企画講演などに連携いただいております「東京都市大学環境学部 木村准教授」より調査提案をいただき、第2回常任役員会にて承認されたものです。会員各位のご協力よろしく申し上げます。

調査の概要は、以下のとおりです。詳細につきましては、ホームページ等でご案内いたします。

- |       |                          |       |     |
|-------|--------------------------|-------|-----|
| ①調査期間 | 2020年11月1日(日)から11月15日(日) | ②調査回数 | 年1回 |
| ③調査項目 | 全30項目                    |       |     |



東京都市大学  
環境学部  
准教授

木村 眞実 様

## ■木村准教授より

### — 「BCP（事業継続計画）とは何か？」

皆様、こんにちは。東京都市大学の木村眞実です。今回は、BCP（Business Continuity Plan）について考えてみたいと思います。

BCPとは、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段等を取り決めておく計画をいいます。

### — BCPの効果は？

BCPの策定には手間がかかります。しかし、BCP策定の効果も言われています。

- ・事業の優先順位が明確になった。
- ・業務の定型化・マニュアル化が進んだ。
- ・業務の改善・効率化につながった。

また、BCPを策定したことで、国から『事業継続力強化計画』の認定を得て、補助金等の加点材料としても役に立っているという意見もあります。

### — BCP実態調査の目的

効果が期待できるのに、どうしてBCP策定が進まないのか？

そこで、私は、日本自動車リサイクル機構の会員企業を対象として、BCP策定の実態把握と、策定に際しての課題、皆様が想定する「リスク」とは何か等を調査したいと思います。「BCP実態調査」の結果は、自社の重要事業を見直す機会の提供、想定されるリスクの把握、そしてBCPの策定やブラッシュアップへつながると考えます。一緒に「BCP実態調査」のデータを使い、私たちの自動車リサイクル業界を見てみませんか？そして、調査結果を受けて、貴社ではどのような経営意思決定を行いますか？



詳細は当機構ホームページに記載しております。  
「会員を対象とした景況調査とBCP実態調査の実施について」  
<https://www.elv.or.jp/index.php?itemid=1697>

## リサイクル博士が行くリサイクル現場見学

従来は、小学生とその保護者を対象とした理解活動として自動車リサイクル現場の見学会を実施していましたが、昨今の事由により見学会は中止となりました。

代わってリサイクル博士が行くリサイクル現場見学として、8月29日（土）に山形県の株式会社永田プロダクツ様を訪問されました。

コロナ禍、酷暑、長時間にもかかわらず、永田社長をはじめ従業員の方々が、リサイクル博士を暖かく迎え入れていただき、フロン類やエアバッグ類の適正処理やリサイクル部品が生み出され、保管、送り出されるまでの過程を取材しました。



## 「リサイクル博士」ゆるキャラグランプリ堂々の44位

東日本大震災のあった2011年に、ゆるキャラで地域や企業、日本を元気にしようと始まったゆるキャラグランプリ。節目となる10回目を迎えた今年が最後の開催となりました。

リサイクル博士がエントリーした、「企業・その他」部門では、実に294キャラのエントリーがありました。結果、見事44位という好成績を収めました。

投票していただきました皆様、本当にありがとうございました。今後もリサイクル博士を通じた様々な活動にご期待ください。



【リサイクル博士】

## 番組収録時のエアバッグによる事故について

先日、フジテレビのとある番組収録時に、エアバッグの上に人が乗って破裂させたらどうなるか？というような趣旨で実験が行われ、その際、実験に参加した出演者が脊椎の圧迫骨折という怪我をしたという報道がありました。

エアバッグは法律で回収して処理することが義務付けられている部品であり、その危険性については、皆様は当然ご認識のことと存じます。

当機構として看過できない事故であることから、フジテレビに対して抗議の意の表明とともに、エアバッグについての認識を改め、社会的な啓発につながるような行動を求める旨の文書を提出しました。

## 九州ブロック会議

第1回九州ブロック会議が9月25日（金）にウェブ会議にて開催され、今回は熊本大学の外川教授にもご参加いただきました。

前半は9月15日に開催された第2回地域ブロック長会議における、①自動車リサイクル士制度認定更新講習会の申込状況と申込の促進のお願い、②J-FAR 受託事業「リサイクル設計事例集制作」のヒアリング状況について、③今後実施する景況調査とBCP 調査の目的と概要について、④収支報告についての4点を報告・共有しました。

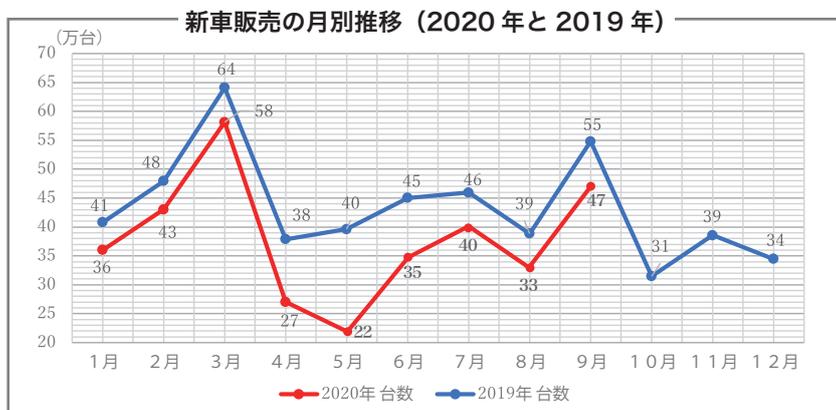
また、今般のコロナ渦でWEB 上での会議がスタンダードとなっていくことから、各支部でウェブ会議ができるようアカウントを作成しました。

後半は外川教授から各地域に対し、最近の入庫状況や、新型コロナウイルスによる影響等のヒアリングがありました。



## 9月新車販売・使用済自動車発生台数

### ■2020年9月度 新車販売台数 469,706台 前年同月比 85.7%



過去の自動車販売台数推移		
年累計	台数	前年比(%)
2020年 (9月まで)	3,400,264	81.9
2019年	5,195,191	98.5
2018年	5,271,987	100.7
2017年	5,234,095	105.3
2016年	4,970,197	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

### ■2020年9月度 使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況



引取件数
251,347件 (前年同月比 93.4%)
フロン回収工程
226,241件 (前年同月比 94.2%)
解体工程
261,377件 (前年同月比 94.7%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 10月第3週(20日)の鉄スクラップ動向



10月20日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	26,500 ~ 27,500	様子見
	南関東	26,500 ~ 27,500	様子見
名古屋		25,500 ~ 27,000	様子見
関西	大阪	27,000 ~ 27,500	様子見
	姫路	26,000 ~ 26,500	様子見

### 鉄スクラップ輸出市場、韓国値下げも日本側は冷静な反応

日本産鉄スクラップ輸出市場では需要国側との新規商談が続いている。韓国向けでは、東国製鋼が先週の商談でH2を前週比500円安の1トあたりCFR28,000円(FOB換算値26,500円どころ)で3,000ト程度成約した。また、現代製鉄は15日にHSをFOB29,500円、H2同26,000円、新断バラを同30,000円へ値下げした。

こうした韓国メーカーの値下げに対して日本側の多くは冷静な反応を示し「安値成約は一部事業者だけのイレギュラーな動きだ。大局的なものではない」(関東輸出筋)との指摘もある。関東湾岸ではH2浜値を27,000円に戻す動きが広がっている。現代向けの商談では10万ト以上のオファーが集まったが日本側の希望価格が高く、成約量は2~3万ト程にとどまる見通しだ。

ベトナム向けH2交渉価格はCFR295ドル程度を保っている。為替が前週からやや円高に進み、海上輸送費も小幅高となっているが、FOB推定換算値は27,500円どころとなっている。先週はベトナムの一部メーカーがH1&H2にCFR303ドルの引き合いを出したようだ。

また、台湾向けH1&H2交渉価格もCFR290ドル近く(H2FOB換算値27,500円)を維持しており、浜値に比べて割安だが、韓国向けよりも高い水準にある。

#### 【関東地区】 概ね様子見横ばいの推移 一部電炉が品種別に調整下げ

関東市場の鉄スクラップ市況は、概ね様子見横ばいのまま10月下旬に向かっていく。市中スクラップの発生・荷動きが低調な一方、南関東電炉を中心に需要回復傾向となっており、需給が均衡するか、やや品不足感が強まる展開となっている。10月20日午前時点のH2炉前実勢価格は26,500~27,000円中心、高値27,500円見当。H2浜値は26,500~27,000円中心で、安値修正の動きが広がり、高値が500円どころ上げ戻した。

#### 【東海地区】 月後半入りも変わらず様子見商状

名古屋地区の鉄スクラップ市況は10月後半に差し掛かってもなお値動きは見られない。9月は中間決算期の関係から、甲山関係の出回りも底上げされた形にあったが、今月に関しては「引き続き解体案件などは増えてきておらず、ヤード入荷も乏しい」(業者筋)とする声は複数で聞かれる。新断類は比較的需要は堅調だが、一般ヘビーの供給量はなお落ち込んだままだ。10月20日午前時点のH2炉前実勢価格は25,500~27,000円中心。

#### 【関西地区】 メーカー需要引き続き安定し様子見推移

大阪地区の鉄スクラップ市況は依然として膠着ムード。船積み要因により10月第2週に比べて荷動きが冴えない。こうした中、輸出商談ははまだ方向性が定まっておらず、東京製鉄の買値レベルも上回っている。電炉筋も一定の購入を要するポジションには変わらないため、このまま安定した引き合いがしばらく続きそう。10月20日午前時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が27,000~27,500円中心。姫路地区が26,000~26,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月20日午前時点のもの)

## — 11月の主な行事予定 —

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■11月10日(火)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J-FAR(事例集)定例会議</li> </ul> </li> <li>■11月12日(木)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車リサイクル士制度<br/>[第3回更新講習会]</li> <li>・ 第8回広報部会</li> </ul> </li> <li>■11月18日(水)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第6回 リサイクル技術部会</li> </ul> </li> <li>■11月19日(木)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近畿ブロック会議</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■11月20日(金)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第51回自動車リサイクル合同会議</li> </ul> </li> <li>■11月26日(木)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回自動車リサイクル推進会議</li> </ul> </li> <li>■11月27日(金)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車リサイクル士制度<br/>[第4回更新講習会]</li> <li>・ 東北ブロック会議／東北ブロック交流会</li> </ul> </li> </ul> |
|--|---|

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

## お知らせ

### 自動車リサイクル士制度認定更新講習会について

現在開催中の「自動車リサイクル士制度認定更新講習会」の申込締切日が近づいてきております。定員にまだ余裕がございますので、更新対象となっており、受講を希望される方は、お申込みいただきますようお願いいたします。

また、今回はPCやタブレットを使用したサテライト方式の講習会となっております。ご送付した申込書類等を今一度ご確認ください。

なお、受講日程が合わず、どうしても受講できない場合は、来年(2021年度)も更新講習会を開催する予定ですので、次年度に受講ください

#### ■ 今後の講習会日程

- ・ 第5回：2020年12月15日(火)
- ・ 第6回：2021年1月21日(木)
- ・ 第7回：2021年2月16日(火)

#### ■ 申込締切

2020年11月6日(金) 消印有効

## 編集後記

先月くらいから、少しずつではありますが出張が復活してきました。しかしながら私の住む東北は依然、飛行機の減便が多く、移動は約3倍の時間は掛かる鉄道をメインとしなければなりません。多少抵抗はありましたが、しかしやってみるとこれが思いのほか感動ものです。車窓から眺める青々とした海、山の緑に思わず心が癒やされます。いつも慌ただしく移動していたときには感じることもなかった心の安寧を得ることができました。これは思わぬ発見でした。

コロナ災禍では、いまだ多くの人々が感染で苦しみ、人間関係で苦しみ、ビジネスで苦しんでいます。コロナ災禍は招かれざるものには間違いありませんが、しかしながら、あらゆる場面で観念化された行動や物事の在り方を見直すきっかけになっているように思います。確かに飛行機での移動は早く、効率が良いことは間違いありません。しかしその一方で、もう少しのんびりと心に余裕を持たせる時間も必要ではないかと思いだめたのもこの騒動のおかげといえます。車窓から人生を考えるひとときも時には必要と思うのですが。

(広報部会 部会長 永田 則男)